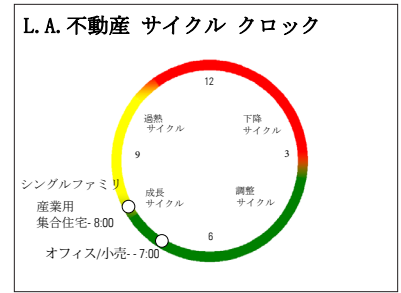


ロサンゼルス経済の動向

2015年後半のロサンゼルス経済は、全米平均を上回るペースで成長した。総雇用者数は、広範なセクターでの雇用増加により、前年比2.1%増加した。その中でも建設セクターの雇用は最も急増し、まだ景気後退前のピークには達していないものの、予想期間内でも増加が続く見通しである。教育サービス及び医療サービス部門における雇用は、前年比25,000人増加している。そして専門職及びビジネスサービス部門の雇用の伸びが景気を刺激し、12,000人同期間で増加する一方、人口増加及びオイル価格低下による可処分所得増加の恩恵を受け、商業貿易セクターと観光セクターも増加した。今後の見通しとしては、短期では雇用増加率は2016年1.8%に減速し、2017年及び2018年には1.1%で安定すると予想している。その後は順調に回復し、雇用増加率は2020年に1.7%に達するだろう。今後5年間で、教育及び医療サービス部門、専門職及びビジネスサービス部門の雇用は、約170,000人増加し、地域の雇用増加の約半分を占めるだろう。RCG社の予想では、失業率は2016年から上昇し始め、2017年に7.0%のピークを付け、その後予想期間の終わりには6.5%まで低下すると見ている。



景気見通し リスク判断

2016f-2017f: 低-中
2018f-2020f: 低-中

平均雇用増加率

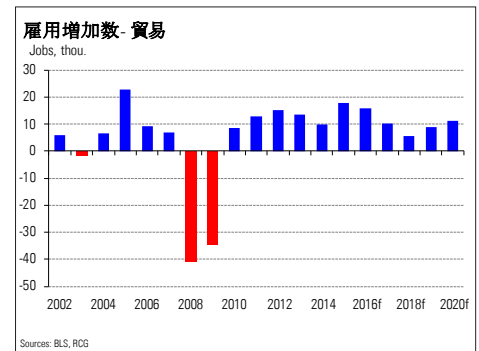
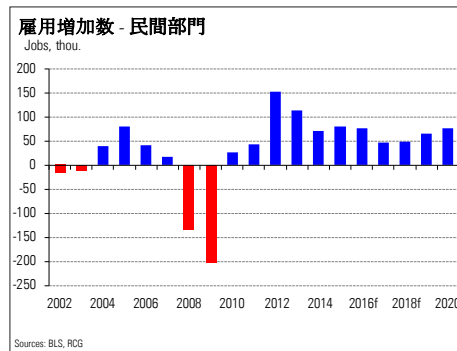
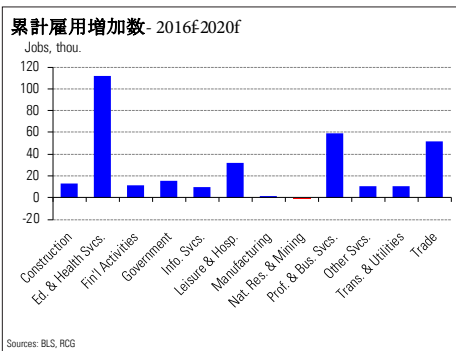
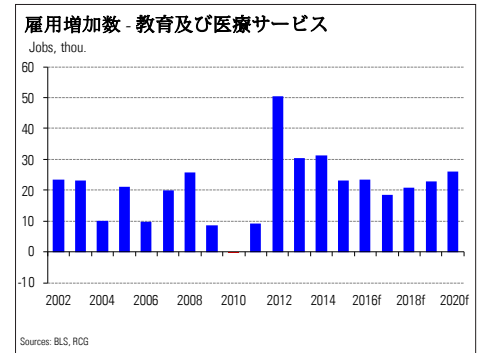
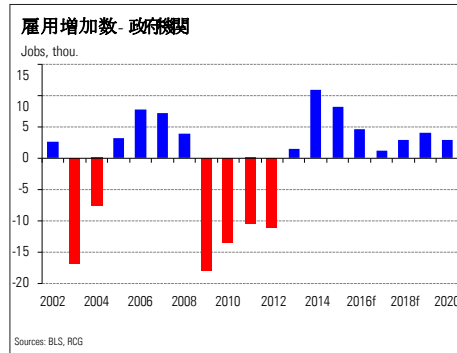
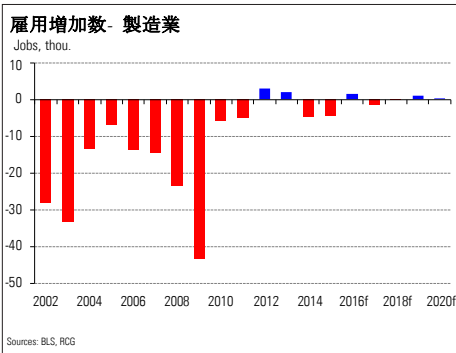
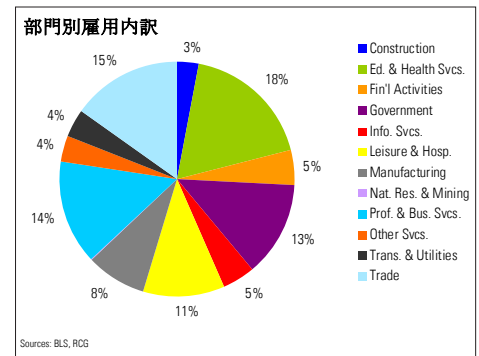
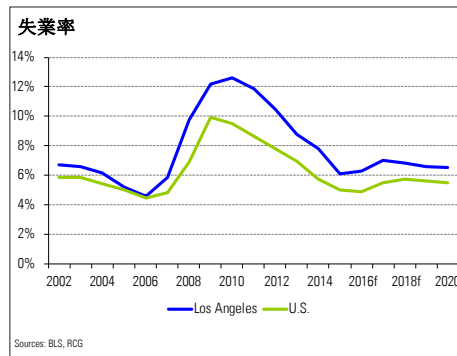
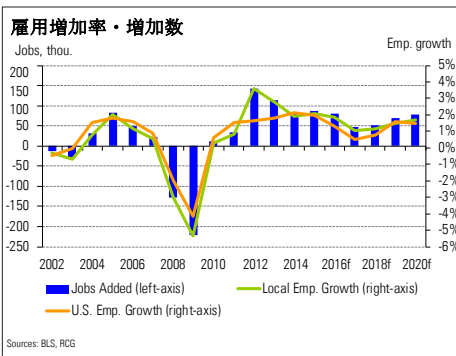
2011-2015e: 2.2%
2016f-2020f: 1.5%

雇用者数 (単位: 千)

2015e 4,355

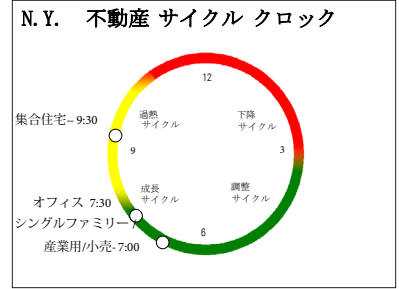
人口 (単位: 千)

2015e 10,188



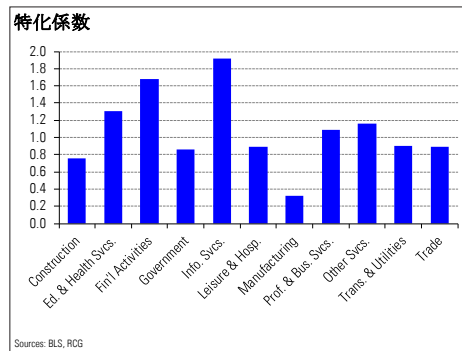
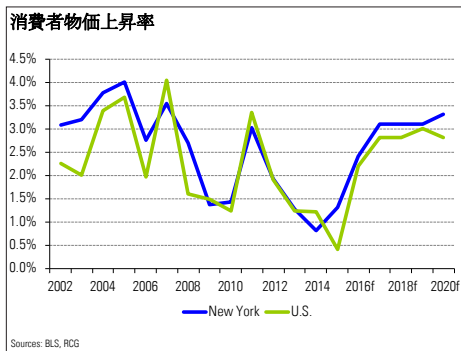
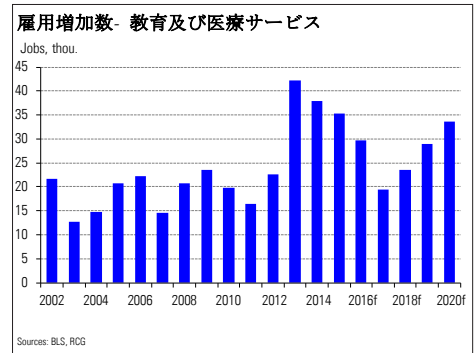
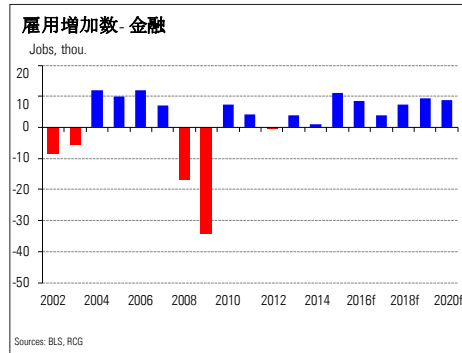
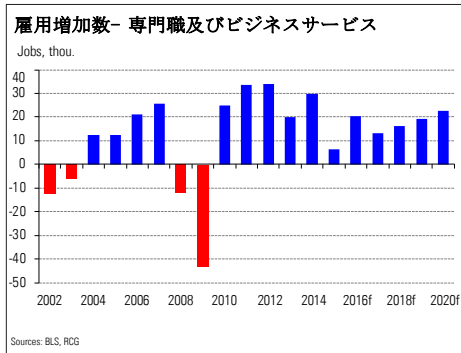
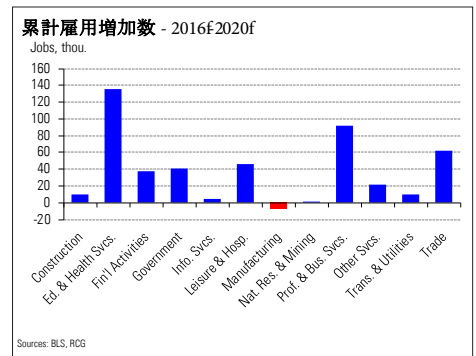
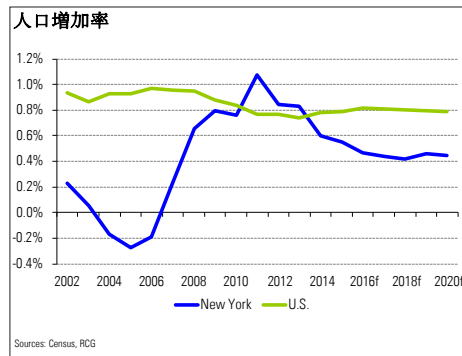
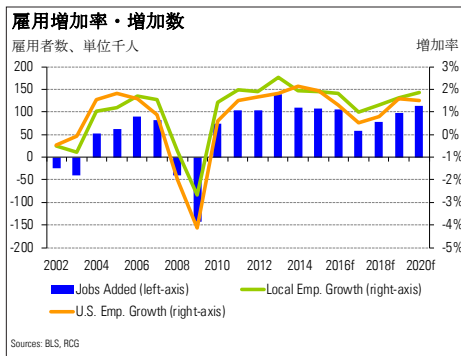
ニューヨーク経済の動向

2015年のニューヨーク圏の経済は、引き続き安定成長を遂げたが年央の急伸から若干落ち着きを取り戻している。ニューヨーク圏では100,000人雇用が創出され、RCG社のカバーする市場でトップとなるが、成長率で見ると中位である。採用数全体のペースは減速しているものの、教育サービス及び医療サービス部門の雇用増加が際立った伸びを示し、加えてハイテク業界の雇用活発化により専門職及びサービス部門を中心に増加した。金融セクターは、今期のサイクルでは低調であったが、雇用増加は加速しており、2016年は堅調な伸びを示すと予想する。RCG社では、2016年の雇用全体の伸びは、過去2年間と基本的に変わらず1.8%と予想している。その後、2017年には減速して1.0%をつけた後、緩やかに回復して2020年には1%台後半を付けると予想する。新規求人数が新規求職者数を上回ることから、失業率はさらに低下し、2016年には今回サイクルの底となる4.7%に達し、若干戻りはするものの中期的に5%台前半の狭いレンジに留まるだろう。人口の動きは、流出は若干みられるが、安定的な増加を維持し、2016年から2020年まで年率0.4%増を予想している。



景気見通し リスク判断

2016f-2017f:	低-中
2018f-2020f:	低-中
平均雇用増加率	
2011-2015e:	2.0%
2016f-2020f:	1.5%
雇用者数 (単位: 千)	
2015e	5,830
人口 (単位: 千)	
2015e	12,342



大都市圏: 増加雇用数 ランキング

Metro Area	Yr/Yr Abs. Change	Yr/Yr % Change
New York, NY	93,500	1.6%
Los Angeles, CA	89,900	2.1%
Dallas, TX	79,700	3.4%
Atlanta, GA	76,900	3.0%
Washington, DC	59,200	1.9%
San Francisco, CA	51,500	4.5%
Seattle, WA	51,200	3.3%
San Jose, CA	50,900	5.0%
Phoenix, AZ	49,500	2.7%
Boston, MA	48,500	1.9%